

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1494400128	事業の開始年月日	平成29年11月16日
		指定年月日	平成29年11月16日
法人名	社会福祉法人 三栄会		
事業所名	グループホームすずの家		
所在地	(252-1115) 神奈川県 綾瀬市 落合南 2-1-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年11月8日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一日一日を大切に、皆で支え合いながら穏やかに過ごしていただいています。毎日、笑顔が見られるよう一人ひとりに寄り添った生活を送っていただいています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年12月12日	評価機関 評価決定日	令和5年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急電鉄の長後駅西口4番バス停から約15分の終点「長坂上」下車、徒歩1分ほどの場所にあります。近くには東海道新幹線が走っていますが、事業所は、林や畑が点在する閑静な住宅街に建つ2ユニット2階建ての建物です。

<優れている点>

定職率が高いため、10年以上勤務しているベテラン職員が多く、チームワークよく業務に従事しています。入職1年目の職員には、ベテラン職員が丁寧に指導し、働きやすい職場環境となっています。施設の管理者も事業所に勤務して10年を迎え、住民の一人として地域と「顔の見える関係」を築いています。事業所の共有スペースは採光が優れているために明るく清潔感を保ち、廊下の広さも確保しています。広い廊下を利用して事業所の全体会議を開いています。事業所を運営する社会福祉法人の事務局長は週2回来訪し、事業所の運営確認や、職員の要望、提案を聞いています。

<工夫点>

日々の排泄回数、食事量、バイタル測定値などは、職員が一目で利用者の状態がわかるように記入し、さらにタブレット端末で電磁的に各データを保存することで、時系列的に利用者の身体の変化を把握できるようにしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームすずの家
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口、各フロアにすずの家の理念を掲示し職員は実務に努めている。申し送りやカンファレンス、勉強会で理念を確認し、サービスを実施している。	事業所の名称である「すずのいえ」を踏まえ、「す」は「過ごしやすい」、「の」は「のんびり」、「え」は「笑顔いっぱい」など5つの理念としています。理念は職員の目につきやすいように大きい文字で記し、廊下に掲示し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、クリーンキャンペーンに参加したり、回覧板を持って行ったりし交流を図っている。コロナの明けた時には協力していただけることになっている。	コロナ禍以前は、自治会の運営するカフェに利用者が出かけていき、お茶を飲みながら地域住民と交流をしていました。コーラスや紙切り芸といったボランティアも来訪し利用者の楽しみの一つとなっています。事業所敷地内には、住民が利用できるベンチも設置しています。	コロナ禍後、ボランティアの活動が再開できるように、利用者の様子を報告するなど、関係を絶やさないようにすることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入口に看板をたて、地域の方に気軽に訪問できる環境づくりをしていたが、コロナウイルス感染拡大防止の為行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進書面会議を開催し、利用状況、行事等の報告を行い意見交換している。	地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族が参加して2ヶ月に1回開催しています。現在はコロナ禍のため書面での開催としていますが、入居者の様子、職員の配置状況、事業所で行われたイベントの様子、感染症対策の実施状況を詳細に報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の高齢介護課へ毎月空室状況を報告。運営推進書面会議で入居者の様子やホームの取組みを伝えて、意見交換している。	事業所の空き室状況の報告や運営推進会議の報告を通じて綾瀬市役所高齢介護課と意見交換をすることにより、行政との連携が図られています。生活保護受給者の受け入れもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束についての研修に参加し、3ヶ月に1度、勉強会で情報共有し、身体拘束をしないケアを実践している。年4回の委員会を開催し周知させている。	安全のため、家族の了承を得てから赤外線センサーを使用している利用者もいます。身体拘束に関する勉強会を年に4回開催し、さらに月に1回、自宅でも理解を深められるよう、タブレット端末を利用した「e-ラーニング」研修も実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修に参加し、3ヶ月に1度勉強会で情報共有し、虐待防止に取り組んでいる。虐待防止のための指針を整備中。	事業所の全体会議、カンファレンスの機会を利用して身体拘束について職員が話し合う時間を設けています。スピーチロックなど、職員間で気づいた点を指摘し合い、改善していく職場環境に努めています。	「虐待防止のための指針」を整備することが期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修に参加し、勉強会で情報共有し、権利擁護に取り組んでいる。現在、外部研修は見合わせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際は、重要事項内容について説明を行い疑問や不安があればじっくり話し合うようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内に意見箱を設置したり、来所された家族に意見や要望を伺い反映するよう努めている。	事業所の理念の一つである「過ごしやすい家族的なホーム作り」を実践するために、日々の介護を通して利用者の要望を把握するように努めています。家族とは電話連絡の際に意見、要望を聞き取っています。家族の希望で、訪問マッサージの導入をした例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、週に数回、管理者はほぼ毎日出勤し、コミュニケーションがとれている。カンファレンスや個人面談で職員の意見を聞き反映している。	職員が事業所運営法人、施設管理者に対して意見を言いやすい職場環境になるよう努めています。施設の管理者は全体会議や個人面談を通じて職員の意見を聞き、事業所の運営に反映させています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、週に数回来所し、職員の体調、精神面に気を配っている。	事業所を経営する社会福祉法人の事務局長が週に2回来訪し、職員の要望、提案を聞いています。資格取得を支援するために、金銭面の助成やシフトの調整なども行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を推奨し、希望者には、勤務変更等、受講しやすい環境作りが行えている。	事業所内研修に参加した職員は「確認テスト」を行い、学んだことの振り返りを実施しています。外部研修参加後は、報告書を書くことによって職員間で情報共有をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の他グループホームと2ヶ月に1度の連絡会に参加して交流をもっている。現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に本人と面談し、要望、困りごと、不安なことを聞き取り安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に家族と面談を行い、困りごとや不安なことなどについて、傾聴し、安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族から話をよく聞き、必要なことは何かを見極め、支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に職員は、利用者主体に関わり、一緒の時間を大切にする中で、お互いの理解を深め思いをくみ取り活かそうとしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族は、本人にとって一番重要な存在であるため、いつでも面会したり、外出できるように働きかけている。月に1度お便りと写真を送付している。(面会に関しては状況を見て判断している。)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族と馴染みの方の来所を促している。自宅への一時帰宅も行っている。現在は中止状態。	コロナ禍以前は、家族と一緒にの外泊や、友人に会いに行く利用者がいました。馴染みの美容院に行く利用者もいましたが、いずれも感染症に留意し、中止しています。現在は、電話や手紙通じて関係継続を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	申し送りやカンファレンス等で情報共有し、利用者一人ひとりの性格を把握し、毎日マンツーマンで複数の職員が関わる時間を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了したご家族に運営推進会議に参加していただいている。現在は、書面会議に参加していただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を日々の言動からくみ取っている。希望をうまく伝えられない方は、表情、仕種でくみ取るように努めている。	意思疎通が困難な利用者には、職員は日々の暮らしの中で、利用者の意向や表情、しぐさを汲み取っています。利用者に寄り添いながら信頼関係を築いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族面談時に本人の生活履歴を確認し、職員で情報共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のケア記録で心身状態や様子を残し、職員は出勤時に申し送りや記録に目を通し、状況を確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、ご家族の要望、意見を確認し、カンファレンスで話し合い作成している。	家族や本人が担当者会議に出られない場合も考慮し日頃から、本人や家族の希望や要望を職員全員で共有しています。短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月をカンファレンスで見直しています。計画作成担当者がまとめ上げて、計画を作成します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事、服薬、排泄、日々の様子、発言内容をタブレット端末に記録している。個別記録は、一覧でき職員間で情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	カンファレンスや申し送り等で情報交換し、変化するニーズに対応したサービスができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方々に定期的に来てもらうことで利用者が楽しまれている。近所の美容室がヘアカットに来てくれたり、ふれあいの家のカフェを利用し楽しんでいる。（現在、中止状態）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時にご本人、ご家族と相談の上、適切な医療を受けられるように支援している。	月に2回かかりつけ医の往診があります。精神科や嚥下評価も行っています。法人の看護師は週に1回来訪しています。歯科医の往診も月1回行っています。本人や家族の希望を尊重し適切な医療を受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週に1度来所し、必要時は24時間365日連絡し確認できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院のソーシャルワーカーと連携を図り、情報交換、相談に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に関しては、入居時に指針を説明している。入居後、終末期と考えられたら、ご家族、ケアマネ、ホーム長、医師、看護師と現状、今後の対応を確認し、定期的に面談を行う。	重度化した場合や終末期の指針について、利用者や家族に説明しています。終末期と考えられた場合は、利用者や家族、医師や看護師と連携し、施設全体で支援していきます。看取りについても、今後取り組んでいく方向で考えています。	コロナ禍後、少しずつ看取りも体制に取り組んでいくことが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	経験が浅い職員は、独力での対応が難しいこともあるが、管理者や同僚らの力を借りながら対応している。医師、看護師より指示を受けた内容は、職員で共有し、実践できている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行っている。消防署立ち合いの総合訓練も行っている。	消防署の立ち合いで、定期的に総合訓練を行っています。夜間想定、昼間想定も行っていきます。避難場所は近くの小学校になっています。備蓄は定期的に法人との連絡で確認しています。消費期限も確認しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いに注意を払い、表情、態度にも気を付け、プライバシーを損ねないように尊敬の面を持って接している。	ケアの面では、排泄時や入浴時は特にプライバシーを守る対応に心がけています。言葉かけは、年長者としての敬意を持ち、接することでスピーチロックにならないように対応しています。ハード面では、個人情報鍵付きの書庫に入れてあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の活動を制限しないように見守っている。危険の無い範囲で自由に活動していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールで決められたこと以外はご自分のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	選びやすいようにダンスに種類別に入れている。わかりづらい方には、何が入っているのかシールを貼っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付け、食器拭き等、職印と一緒にやっている。利用者からメニューの要望を聞いて、皆で料理したりすることもある。	食材、献立や栄養面は業者に委託しています。正月やクリスマス等の行事食や季節の彩りを加えることで、日々変化のある食事を楽しんでいます。ミキサー食や刻み食の方には職員が手を加えています。利用者で、下膳や食器拭きを手伝う利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	タブレット端末に食事摂取量を記録している。水分摂取量も必要な方は、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っている。月に1度歯科往診があり、歯科医と連携がとれている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。立位可能な方は、トイレでパット交換を行っている。ご本人より排泄の訴えがある時には、その都度誘導を行っている。	排泄チェック表を活用しています。利用者の一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや排泄誘導しています。排泄時の立位に対応し、ケアを行っています。立位や着脱を含め、可能な限り、残存能力を大切に、自分で行えるよう見守り支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、体操を行っている。水分は、多めに摂取していただけるよう努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	予定は組んでいるが、ご本人の気分に合わせ日程の調整をしている。	原則、入浴は週2回です。入浴時に全身のチェックも行います。入浴時のコミュニケーションも大事にしています。柚子湯や菖蒲湯も行います。重度の利用者にも2人介助をすることでシャワー浴に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の休息はご自分の好きな時間にと取っていただいている。介護度の高い方には、職員が時間配分を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師が説明を行い、アドバイスを受けている。職員が利用者の服薬状態を伝えて、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中から、要望を確認するよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、散歩やドライブに出かけている。ご家族の協力で外出や外泊される利用者もいるが、このコロナ禍でそこは行えていない。	コロナ禍でも、近隣の散歩を順番に利用者と職員の1対1で行っています。近くの蟹ヶ谷公園へドライブも実施しています。コロナ禍の為、感染症に留意し、墓参りを含め、家族との外出には至っておりません。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、現金所持は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知症状が軽度でご本人から要望があれば行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入口にブランターを設置し、職員と水やりを行ったり、季節ごとに掲示物を行ったりしている。	施設は、24時間空調になっていますが、コロナ禍の為、窓の換気や、湿度と温度にも気を付けています。2階のフロアには菌の減圧装置も置いています。季節感を大事にし、玄関先の花や観葉植物の水やりも利用者と職員が一緒に行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置き、ゆっくりくつろげる場所を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、使い慣れた馴染みのある家具、コップや思い出の品をご家族に持って来ていただけるように説明している。	施設で備え付けられているものは、ベッド、エアコン、洗面台です。防災カーテンは持ち込みとなっています。思い出の品や写真も持ち込んでいます。居室担当を決め、季節時の衣服の入れ替え等の支援もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は、すべてバリアフリーで、廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレには分かりやすいように大きな張り紙をしている。		

事業所名	グループホームすずの家
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口、各フロアにすずの家の理念を掲示し職員は実務に努めている。申し送りやカンファレンス、勉強会で理念を確認し、サービスを実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に参加し、クリーンキャンペーンに参加したり、回覧板を持って行ったりし交流を図っている。コロナの明けた時には協力していただけることになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入口に看板をたて、地域の方に気軽に訪問できる環境づくりをしていたが、コロナウイルス感染拡大防止の為行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進書面会議を開催し、利用状況、行事等の報告を行い意見交換している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の高齢介護課へ毎月空室状況を報告。運営推進書面会議で入居者の様子やホームの取組みを伝えて、意見交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束についての研修に参加し、3ヶ月に1度、勉強会で情報共有し、身体拘束をしないケアを実践している。年4回の委員会を開催し周知させている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修に参加し、3ヶ月に1度勉強会で情報共有し、虐待防止に取り組んでいる。虐待防止のための指針を整備中。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期的に研修に参加し、勉強会で情報共有し、権利擁護に取り組んでいる。現在、外部研修は見合わせている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際は、重要事項内容について説明を行い疑問や不安があればじっくり話し合うようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所内に意見箱を設置したり、来所された家族に意見や要望を伺い反映するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は、週に数回、管理者はほぼ毎日出勤し、コミュニケーションがとれている。カンファレンスや個人面談で職員の意見を聞き反映している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、週に数回来所し、職員の体調、精神面に気を配っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を推奨し、希望者には、勤務変更等、受講しやすい環境作りが行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内の他グループホームと2ヶ月に1度の連絡会に参加して交流をもっている。現在、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に本人と面談し、要望、困りごと、不安なことを聞き取り安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前に家族と面談を行い、困りごとや不安なことなどについて、傾聴し、安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族から話をよく聞き、必要なことは何かを見極め、支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に職員は、利用者主体に関わり、一緒の時間を大切にする中で、お互いの理解を深め思いをくみ取り活かそうとしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族は、本人にとって一番重要な存在であるため、いつでも面会したり、外出できるように働きかけている。月に1度お便りと写真を送付している。(面会に関しては状況を見て判断している。)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	家族と馴染みの方の来所を促している。自宅への一時帰宅も行っている。現在は中止状態。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	申し送りやカンファレンス等で情報共有し、利用者一人ひとりの性格を把握し、毎日マンツーマンで複数の職員が関わる時間を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスを終了したご家族に運営推進会議に参加していただいている。現在は、書面会議に参加していただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を日々の言動からくみ取っている。希望をうまく伝えられない方は、表情、仕種でくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族面談時に本人の生活履歴を確認し、職員で情報共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のケア記録で心身状態や様子を残し、職員は出勤時に申し送りや記録に目を通し、状況を確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、ご家族の要望、意見を確認し、カンファレンスで話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事、服薬、排泄、日々の様子、発言内容をタブレット端末に記録している。個別記録は、一覧でき職員間で情報交換を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	カンファレンスや申し送り等で情報交換し、変化するニーズに対応したサービスができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のボランティアの方々に定期的に来てもらうことで利用者が楽しまれている。近所の美容室がヘアカットに来てくれたり、ふれあいの家のカフェを利用し楽しんでいる。（現在、中止状態）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時にご本人、ご家族と相談の上、適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は週に1度来所し、必要時は24時間365日連絡し確認できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院のソーシャルワーカーと連携を図り、情報交換、相談に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に関しては、入居時に指針を説明している。入居後、終末期と考えられたら、ご家族、ケアマネ、ホーム長、医師、看護師と現状、今後の対応を確認し、定期的に面談を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	経験が浅い職員は、独力での対応が難しいこともあるが、管理者や同僚らの力を借りながら対応している。医師、看護師より指示を受けた内容は、職員で共有し、実践できている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行っている。消防署立ち合いの総合訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いに注意を払い、表情、態度にも気を付け、プライバシーを損ねないように尊敬の面を持って接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の活動を制限しないように見守っている。危険の無い範囲で自由に活動していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールで決められたこと以外はご自分のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	選びやすいようにダンスに種類別に入れている。わかりづらい方には、何が入っているのかシールを貼っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付け、食器拭き等、職印と一緒にしている。利用者からメニューの要望を聞いて、皆で料理したりすることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	タブレット端末に食事摂取量を記録している。水分摂取量も必要な方は、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っている。月に1度歯科往診があり、歯科医と連携がとれている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。立位可能な方は、トイレでパット交換を行っている。ご本人より排泄の訴えがある時には、その都度誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、体操を行っている。水分は、多めに摂取していただけるよう努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	予定は組んでいるが、ご本人の気分に合わせて日程の調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の休息はご自分の好きな時間にと取っていただいている。介護度の高い方には、職員が時間配分を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師が説明を行い、アドバイスを受けている。職員が利用者の服薬状態を伝えて、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中から、要望を確認するよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、散歩やドライブに出かけている。ご家族の協力で外出や外泊される利用者もいるが、このコロナ禍でそこは行えていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、現金所持は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	認知症状が軽度でご本人から要望があれば行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入口にブランターを設置し、職員と水やりを行ったり、季節ごとに掲示物を行ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置き、ゆっくりくつろげる場所を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、使い慣れた馴染みのある家具、コップや思い出の品をご家族に持って来ていただけるように説明している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は、すべてバリアフリーで、廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレには分かりやすいように大きな張り紙をしている。		

2022年度

事業所名 社会福祉法人 三栄会 グループホームすずの家
 作成日： 2023年5月11日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍でボランティアの活動が停止していることで、地域との関わりが薄くなってきている。	ボランティア活動の再開。	運営法人とボランティア受け入れの話し合いを行う。その後にボランティアの方へ活動依頼。	6ヶ月
2	3	現在、運営推進会議を書面会議で行っているが、書面では伝わっていないかわからない。	運営推進会議の再開。	運営法人と運営推進会議の再開に向けての話し合いを行う。	3ヶ月
3	6	虐待防止のための指針の整備が遅れている。	虐待防止のための指針の整備を行う。	運営法人と法人内の別グループホームと虐待防止のための指針をすり合わせ完成させる。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月